

『水耕栽培』。日本の農業を再生する貴重な技術革新だ。「水耕栽培で儲かる元気な農業を」と提案する内田進さんは合同会社文化農人の代表、人間大好き、仕事大好き、やさしいお人柄でまわりの人たちを包み込みます。今月は日本の農業への熱い思いを語っていたいただきました。



「毎日が創業です」内田さんがおっしゃった印象的な言葉に驚愕した。2012年のはじめにこの言葉を紙面に

紹介して、読者のみなさまに訴えたい。

「日本の農業はどうなるのか？」「食糧の自給率は40%を切って20%台に転落するのかわ？」、超悲観論がこの国を覆っているように思える昨今、内田さんの力強い持論に接して暗雲が遠ざかる気がした。冒頭の「毎日が創業です」という内田さんの真意は、「現状を打破する方策について考え、かつ実践しています」ということのようにだ。「文化農人」という新しい言葉も、やがて当たり前になりながら使う言葉になるはずだ。「農・商・工の連携を推進し、農業再生によって社会に貢献します」「地域の活性化と雇用拡大に寄与します」「若い農業者の育成を行います」。内田さんはそんな将来への展望を具体的にかいつまんで説明してくれた。

水耕栽培は驚くなかれ、16毛作、24毛作を可能にする。これによって、外国から来る安いといわれる農産物と堂々とわたりあえる価格が可能になる。農業につきまとうてきた肉休労働のイメージが払拭され、企業を定年退職した高齢者や身体の不自由な人にも取り組める。「雇用の創出」を高々と宣言する所以（ゆえん）である。

日本の総農家数は252万戸、これは50年前の20%強で、65歳以上の方が61%にのぼるといわれる。食糧自給率の40%（カロリー計算ベース）は先進国の中で最低の水準です。内田さんはそんなデータを披瀝されたあと、「この危機的状況を打破してくるのが水耕栽培です」と強調された。

ゴマちゃんファームとのタッグ

内田さんが水耕栽培に挑戦する具体的な実践者は河南町で意欲的な農業に取り組んでおられる「ゴマちゃんファーム」だ。「農業をやっている方の中では比較的若い（50代）ほうです」、内田さんはゴマちゃんファームとの連携によって、農業の新しい展開とその可能性を夢想する。「水耕栽培が軌道に乗ると、アツという間に全国に広がり、とてつもない結果が生まれます。危機的な見方しか出来なかった日本の農業の改革革新です」

\*

産直フェア、受託販売、コンサル事業、教育文化事業、内田さんの構想する「農業再生」には様々なアイデアと実験がある。農業体験、グリーンツーリズム、野菜ソムリエの活用、「毎日が創業です」という言葉の起源はこのあたりにある。過去何百年にわたって継承されてきた農業の常識が、すさまじい勢いで変わろうとしている。そこには当然、新しい企業が誕生し、更に枝や葉が無数に繁茂する。「早いスピードで派生する新規事業を具体化することによって、おびただしい雇用が創出されます」

一夜、内田さんと夜の時間を過ごす機会があった。内田さんの選んだ「青葉城恋歌」をお聞きしながら、この人の根底は正統派でケレン味がないことを確認した。

「頑張っておられる農家の場合でも、実際の所得はあまりにも低すぎます。水耕栽培は「儲かる農業」を提案します。おそろく、若い人たちも「農」に目を向けるようになるでしょう。日本の農業の再生、それどころか黄金時代が甦るかもしれない。「食糧主権なくして外交なし」朝のラジオから流れてきた言葉にハッとしました。

■本社 大阪市中央区大手前2-3-2

TeI 06-6243-7077

Fax 06-4946-7033